

長生きと健康どちらも叶えませんか？



ユサナ・ヘルスサイエンス社「ギンコー PS」
主成分はイチョウ葉濃縮物。記憶力、集中力、学習能力の向上をサポートします。アレルギー物質である「ギンコール酸」は含んでいません。



ユサナ・ヘルスサイエンス社は、創業者兼会長でもあるマイロン・ウェンツ博士が、自身の専門である微生物学と免疫学に基づく細胞の研究から、食事だけで必要な栄養素を摂ることは難しいことを知り、理想の栄養補助食品を自分で作るべく、1992年に米国で設立された会社です。

世界でベストな栄養素を体に取り入れて「真の健康」を

世界トップクラスの日本の平均寿命

内閣府の発表によると平成25年総人口に占める高齢者（65歳以上）の割合は、24・9%と過去最高となりました。毎年この割合は上昇し、社会的負担も急増しています。

ご存知の通り、日本の平均寿命は世界トップクラスですが、最近「健康寿命」というものも注目されています。健康寿命とは、人から助けられる必要がなく日常生活を営むことができる期間です。長生きはしたい。しかし誰もが体調が悪い期間を長々と過ごすことは考えたくもありません。いつまでも快適な生活を楽しめるよう、私たちは年齢を重ねると自身の体や健康を気にかけるようになります。

平均寿命と健康寿命との差

健康寿命と平均寿命の差を厚

成分の略です。ホスファチジルセリンは、脳や神経組織に多く存在し、記憶力や集中力の維持に欠かせない成分で、脳内の情報伝達で重要な役割を果たしています。体内でも一部生成されますが、年をとると減少するので、脳機能が低下してしまいう原因と考えられています。食品では牛肉や大豆に多く含まれていますが、量が少ないためサプリメントから摂るのが望ましい成分です。

今回は、肝臓をサポートする「ヘパシルDTX」を紹介です。

生労働省が公表しています。つまり、この差が介護や病院のお世話になる期間となりますが、男性では9・13年、女性は12・68年となっています（平成22年の公表による）。平均すると11年、これだけ長く体調が悪くなる期間が待っていると思うと、誰もが憂鬱になってしまうのではないのでしょうか。

病院等のお世話になる期間が増えると、社会保障の負担も増えます。私たちの社会全体にとつても、健康寿命と平均寿命の差を短くすることがプラスに働くわけですね。これからの時代は、「自分の健康は自分で守る」ことが私たちにとって大切になってきます。

強力な抗酸化作用のイチョウ葉の成分「ギンコライド」

そこで老化予防として注目されているのが、イチョウ葉です。イチョウは英語で「ギンコ」と



Aya Takahashi
サプリメントアドバイザー

「ブレインフーズ」で脳力アップ！

普段、私たちは何気なく「考えていること」で、脳は一生懸命働いています。脳の重さは体重の2%程ですが、使用するエネルギー



Kenichi Mizusawa
健康指導師（正常分子栄養学）
健康管理士

医療品にも使用イチョウ葉エキス

家族に負担が重く押し掛かる「認知症」にならない生活習慣・食習慣を心掛けることは、家族の将来にはとても大切です。認知症予防で押さえて頂きたいの



Why comprehensive supplements required?

いいです。イチョウ葉に含まれる特有の成分である「ギンコライド」をご紹介します。

ギンコライドは、体が酸化または老化することに対抗する強力な抗酸化作用があります。その抗酸化作用が、脳細胞に作用することで、脳の働きを酸化から守る働きがあります。また、血流を改善する働きもあるので、脳の血管改善をサポートし、認知症などを予防する働きが期待できます。ドイツ、フランスなどのヨーロッパでは、イチョウ葉のエキスが、脳の血流を改善するなどの効果が認められ薬として利用されています。

さまざまな店舗でイチョウの葉エキスを含んだサプリメントが販売されていますが、その中で、米国FDA（米国食品医薬品局）の医薬品を製造できる工場場で製造されたのがユサナ・ヘルスサイエンス社の「ギンコーPS」です。以前、イチョウの葉を使った健康食品で皮膚炎などの健康被害がありました。原因となる「ギンコール酸」は取り除いていますので、安心してお召し上がりいただけます。「ギンコーPS」のPSとは、ホスファチジルセリンという栄養

高橋 彩

*60兆個の細胞をキラキラと輝かせ、笑顔と喜びに満ちあふれた人生を、をモットーに、株式会社A.Style設立。「お医者さまにできるだけ頼ることなく、自分で自分の健康を守る」一予防・未病についての講演会、健康セミナー開催。

ギーは摂取エネルギーの約20%。少し頭が疲れたと感じた時は、水砂糖や黒砂糖、くだもの（果糖）を摂取してくださいね。加えて、「脳力アップのため、「ブレインフーズ」を補給しましょう。USANAのギンコーPSに

水澤健一

39歳で1.5型糖尿病(自己免疫型)発症をきっかけに、食生活を改善。症状のコントロールが出来る様になり、薬が一切不要になる。健康指導師、健康管理士の資格を取得、健康パーソナルコーチングを行なう。

は、イチョウ葉です。日本や中国では、咳や喘息の民間治療に利用され、ヨーロッパでは現在医薬品扱いされています。フラボノイドの一種であるギンコライドが末梢血管の血流をよくすることで、頭痛や不眠症の解消、記憶力の向上、また認知症

は、3つの「ブレインフーズ」が含まれます。①イチョウ葉エキスには、抗酸化作用と脳血管循環のサポートをするフラボノイド類と、血流サポートをするギンコライド。脳梗塞や動脈硬化予防、身体冷えもバックアップします。②PS（ホスファチジルセリン）は、集中力アップなどの新たな有用性が注目されています。③大豆由来レシチンは、細胞膜や脳神経組織を構成する重要な成分で、記憶力や集中力のサポートが期待されています。

の予防につながります。ドイツのコミッションE(ドイツの薬用植物の評価委員会)は、記憶障害、耳鳴り、めまいの改善に対するイチョウ葉抽出物の使用を承認しています。

イチョウ葉にはギンコール酸というアレルギー物質が含まれるため、これがしっかり除去されたものを選ぶ必要があります。ドイツでは、ギンコール酸5ppm以下の規格を満たすものが医薬品と認証され、日本も(財)日本健康栄養食品協会が同様の基準を設けています。